

父親のタイプ別にみた家庭生活と家族関係との関連  
- 「父親の場」に関する研究 (第1報) -  
三重大教育 ○草薙 亜紀 中島 喜代子

1. 【目的】近年、いくつかの社会的変化に伴って、父親のライフスタイルも多様化し、父親自身の家庭への関わり方に大きな変化が起きてきたことによって、父親の住空間への関わり方にも変化が起きてきていると考えられる。そこで家庭生活や家族関係の実態の違いをとらえ、父親のタイプ別にみた住空間への関わり方を明らかにすることを目的とする。まず本報では、父親のタイプによる父親の生活や家族への関わり方の特徴をとらえる。
2. 【調査方法】上記の目的を達成するため、三重県津市及び鈴鹿市内の3つの団地に住む父親を対象に調査を実施した。また団地は住宅条件を一定にするために一戸建て住宅団地とした。調査は、留置式のアンケート調査を実施した。有効サンプル数は414件であった。調査時期は、1994年8月である。
3. 【調査結果】父親のタイプを5つ設定し、父親自身に該当すると思うものを選択させたところ以下のようなになった。「家庭第一」(57%) 「威厳」(18%) 「仕事一筋」(10%) 「存在感が薄い」(6%) 「自分第一」(8%)。「家庭を第一と考えている父親」が一般的な父親のタイプといえる。父親のタイプによって父親の家庭生活や家族の関わり方に違いがみられた。「仕事一筋」「存在感が薄い」タイプの父親は、仕事が終わってもまっすぐ家に帰ることが少なく、家族との関わりも希薄となりコミュニケーションがうまくとれていない。「家庭第一」「威厳」タイプの父親は、逆に寄り道をすることが少なく、家族とすごすことが多く会話も多くなっている。これらのタイプと異なり「自分第一」タイプの父親は、余暇を仕事や家族のためでなく自分自身のために活用している。